



永福学園通信

令和8年1月19日

第9号

東京都立永福学園
統括校長 三浦 昭広

新たな年のはじまりに — 進級・卒業を見据えた学びと支援 —

肢体不自由教育部門 副校長 安田 泉

新たな年を迎え、学校生活も1年のまとめと、次のステージに向けた準備の時期となりました。1月から3月にかけては、進級や卒業といった大きな節目を控え、期待とともに不安や戸惑いを感じやすい時期でもあります。児童・生徒は、これまでの経験を土台にしながら、それぞれのペースで環境の変化を受け止め、次につながる力を少しずつ育んでいます。

こうした「移行期」を見据えた支援について、東京都では特別支援教育推進計画に基づき、学びや生活の連続性を重視した計画的な支援の充実を図っています。進級や進学により環境が変わっても、これまでの育ちや支援の積み重ねが途切れることなく引き継がれることが重要であるとされています。本校においても、個別の指導計画・個別の教育支援計画を軸に、児童・生徒一人一人の実態や成長、必要な支援内容を丁寧に整理し、教職員間での共通理解を図りながら、継続性のある指導・支援を行っています。また、関係機関や御家庭との連携を大切にし、卒業後の生活も見据えた支援につなげていきます。

さて、先週実施いたしました「両部門授業参観週間」では、御多用の中、多くの保護者の皆様に御来校いただき、誠にありがとうございました。日頃の学習の様子を実際に御覧いただくことで、お子様が学校でどのように学び、友達や教職員と関わりながら力を伸ばしているかを、具体的に感じていただけたのではないかと思います。参観後には、「普段の様子がよく分かり、成長を実感できた」といった声が聞かれました。一方で、学校としての支援の在り方や、今後に向けてさらに工夫が必要な点についての御意見もいただきました。こうしたやり取りを通して、学校と御家庭とが連携を深め、より安心して相談し合える関係を築いていきたいと考えています。

学校では今後も、一人一人の歩みに寄り添いながら、安心して次のステージへ進めるよう、計画的で継続性のある支援を進めてまいります。新たな年を迎えたこの時期だからこそ、学校と御家庭とが連携し、子どもたちの姿を共に見つめ、成長を支えていければと願っています。気になることや御不安な点がありましたら、どうぞ遠慮なく学校まで御相談ください。



各部門の教育活動の紹介



《高等部就業技術科》書初め会

高等部就業技術科では、新年最初の登校日に「書初め会」に取り組むことが定例となっています。9名の書家の先生をお招きし、直接朱書きで御指導いただき、選考の上、優秀作品の表彰をいただく等して本格的に実施しています。各学年で課題（抱負）が決まっており、1年生は「強い意志」、2年生は「力強い前進」、3年生は「信念を貫く」という字を書きました。生徒たちは、普段使わない長い半紙に四苦八苦していましたが、最終的にバランス良く、心のこもった字を書くことができるようになりました。日本の伝統行事である書初めを通して、書の心に触れ、書の美しさを感じることで、新年の良いスタートを切れたことと思います。



《肢体不自由教育部門》「訪問学級」～自宅から広がるつながり～

本校の肢体不自由教育部門には、医療的ケアなどの理由で毎日通学することが難しい児童・生徒が在籍しており、「訪問学級」で学んでいます。訪問学級では、教員が児童・生徒の自宅に伺い、基本は週3日・1回2時間の授業を行い、通学している子供たちと同じく、国語や音楽などの教科、自立活動等を学んでいます。

また、訪問学級の子供同士をオンラインでつなぎ、リモートによる合同授業も行っています。先日行った「オンラインボウリング勝負」では友達と一緒にゲームを楽しみ、充実した時間を過ごすことができました。

この他にも学校に登校して、同じ学年やグループの仲間と一緒に授業や行事に参加するスクーリングや、学校と自宅をオンラインでつないで、先生や友達と画面越しに授業に参加したり、交流したりするオンライン授業なども、児童・生徒の実態や状況に合わせて実施しています。



リモートによる合同授業



自宅での授業の様子



スクーリングの様子

東京都立永福学園

副校長 安田 泉 松本 忍 篠塚 奈緒子
主幹教諭 三浦 千尋 吉岡 美佳

〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号
電話 03-3323-1380